

日本古典籍研究国際コンソーシアム
「日本古典籍に関する情報リテラシー」分科会（第2回）レポート

○時差の関係により、2部に分けて開催した。（参加者総数：22名＋事務局）

- ・2021年6月17日(木) 21:00～22:00（日本時間） 参加者：13名＋事務局
- ・2021年6月22日(火) 9:00～10:00（日本時間） 参加者：9名＋事務局

○前回の分科会で出された3つの話題について話し合った。

1. 日本古典籍に関するデジタル資源：教育、人材育成に役立つ情報を共有
2. 書誌学用語勉強会の立ち上げ：多言語の用語集・用例集をオンラインで構築
3. デジタル展示の企画：(例) 医書

○共有された意見や情報を以下3項目に分けて記す。

- (1) 共有された意見・問題意識
- (2) 情報共有されたデジタル資源・参考文献
- (3) 今後の進め方について

(1) 共有された意見・問題意識

1. 日本古典籍に関するデジタル資源

◆デジタル画像の教育的価値

- ・公開されているデジタル画像が、パンデミック中の授業に大いに役立った。
- ・オンライン授業の利点の一つは、古典籍のデジタル画像を拡大して見せられること。画像を拡大すると、字形を比較しやすい。

2. 書誌学用語勉強会の立ち上げ（多言語のオンライン用語集・用例集の構築）

◆書誌学用語の全般的な問題

- ・書誌学用語は、日本国内・日本語の中でも統一されていない。
- ・対象とする時代や専門分野によって（また、そもそも同じ時代・分野の中でも）、様々に異なった用語や、用語の使われ方が見られる。
- ・用語の不統一が、研究・教育上の支障となることもある。
- ・書物の分類方法についても確認・検討したい。分類方法も、機関・専門分野等によって様々に異なっている。

◆書誌学用語の多言語化について

- ・日本の書誌学用語に用いられている漢字・漢語の意味が、韓国語や中国語でも同じなのか、異なるのか、確認したい。
- ・韓国や中国で用いられている書誌学用語についても知りたい。
- ・日本と中国とでは、書誌学用語（装訂に関する用語、「準漢籍」の捉え方など）に相当な違いがある。日本と中国の書誌学用語の比較対照と、日本語の書誌学用語のヨーロッパ言語対応は、別々の課題として捉えた方がよいのではないか。
- ・書誌学用語のフランス語訳については、ストラスブール大学と国文学研究資料館の教員が共同で検討する話が以前あった。
- ・日本国内の資料保有機関でも、資料をデジタルに世界に発信する際に、どのような用語を使うのがよいのか模索しているところである。書名・人名等のローマ字表記についても明確になると、日本国内の司書もローマ字表記を取り入れやすくなると思う。

◆多言語の用語集・用例集の構築方法に関する提案

- ・OJAMASG (在外日本古典籍研究会) の [用語集](#)・[用例集](#) を更に拡充させる方向性は可能か。
- ・国文学研究資料館でデジタル書誌カード (ファイルメーカー) が近代書籍の調査に使われてきている。書誌カードを英訳するところから始めてもよいのではないか。
- ・一つの先例として、東京大学史料編纂所 [Online Glossary of Japanese Historical Terms](#) が参考になるのでは。ゼロから作るのではなく、多言語の研究書・論文・目録等から、書誌学用語の用例や文例を集めるところから始めてはどうか。
- ・焦点を当てる用語を絞っていく作業を最初に行うべきではないか。
- ・Wiki (共同編集ページ) として構築していくことを検討してはどうか。用例・文例を載せ、既に刊行されている辞典や目録等にある情報を集めた上で、説明を書き加えることも可能。
- ・Wiki の形であれば、各用語の具体的な事例を見せるために、古典籍現物の画像へのリンクを貼ることも可能になる。

◆教育と連携させる可能性

- ・「書誌学用語勉強会」が、書誌学の教授法についても考える機会になれば理想的である。
 - ・書誌学用語の Wiki ページ共同編集を授業の一環として行うことも可能かもしれない。
 - ・大学によっては、Wiki 関連を専門としている担当者がある。例えば、ブリティッシュ・コロンビア大学では、Open Education and Scholarly Communications Librarian が担当している。
<https://directory.library.ubc.ca/people/view/798>
- 具体的には、Honouring Indigenous Writers on Wikipedia といったプロジェクト等が進行中。
<https://hiw.open.ubc.ca/>
- ・今後、Edit-a-thon などのイベントを開催して、Wiki の共同編集を後押ししていくことも可能かもしれない。

ブリティッシュ・コロンビア大学の例：

<https://belkin.ubc.ca/events/wikipedia-edit-a-thon-2020/>

- ・共同編集イベントの一部として、レクチャーなどを企画してもよいかもしれない。

◆デジタル展示と連携させる可能性

- ・今後、この分科会でデジタル展示を企画することがあれば、デジタル展示とリンクさせる形で、書誌学用語の検討・多言語化を進めていくことも楽しいのではないか。

3. デジタル展示の企画

- ・デジタル展示を企画する場合は、バイリンガルもしくは多言語で展示してはどうか。
- ・各所蔵機関の使用条件に従えば、様々なデジタル画像を展示することが可能。

(2) 情報共有されたデジタル資源・参考文献

◆デジタル資源（書誌学用語の多言語化とも関連あり）

OJAMASG（在外日本古典籍研究会）

- 書誌学の用語集・用例集（日・英）、ガイドライン（英）

<http://www.jlgweb.org.uk/ojamasg/projects.html>

国立国会図書館（NDL）

- 国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/>

- 国立国会図書館サーチ

<https://iss.ndl.go.jp/>

国内の書籍等分野（公共図書館、大学図書館等）の資料の統合検索（NDL が構築・運用）。新日本古典籍総合データベースとの連携に向けて調整中。

- ジャパンサーチ

<https://jpsearch.go.jp/>

博物館、美術館、公文書館等の様々な分野の統合検索と利活用機能を提供（国全体の取組。NDL はシステムの開発運用を担当）。

慶應義塾大学 KeMCo

- Keio Exhibition RoomX 「交景：クロス・スケープ」

<https://roomx.kemco.keio.ac.jp/>

慶應の展示サイト。英語版もあるので、多言語対応の際の参考にもできる。

国文学研究資料館 (NIJL)

○和書のさまざま

<http://www.nijl.ac.jp/~koen/washyonosamazama/index.htm>

○和書のさまざま (2020年の展示解説)

<https://www.nijl.ac.jp/event/exhibition/2020/07/2020-1.html>

○和書のさまざま (2007年、2017年、2018年の展示図録)

https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=328&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page_id=13&block_id=21

○和書のさまざま (英文による説明)

<https://www.nijl.ac.jp/en/event/exhibition/2019/01/post-8.html>

東京大学史料編纂所

○ Online Glossary of Japanese Historical Terms (日本史グロッサリー・データベース、日・英)

<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller-e>

ブリティッシュ・コロンビア大学

○ Exploring Premodern Japan (動画)

https://www.youtube.com/channel/UCfMvm0JFBb-tv68-nzl_y-A

大学院生が制作。編集はプロのビデオ編集者が担当。資料を中心とした研究を社会に開いていく可能性や、パブリック・ヒューマニティーズ (人文学の社会連携) の視点を持つ大切さについて考えるよい機会となっている。今後、女性研究者の動画がアップロードされていく予定。また、中国語とスペイン語 (制作に関わっている大学院生が使用可能な言語) による動画も制作・発信する予定。

◆参考文献 (書誌学用語の多言語化とも関連あり)

○ドイツ語

Eva Kraft. *Japanische Handschriften und traditionelle Drucke aus der Zeit vor 1868*. 5 vols. Wiesbaden/Stuttgart: Steiner, 1982–1994. 【古典籍目録】

Ekkehard May et al., *Bunken: Studien und Materialien zur japanischen Literatur*. Wiesbaden: Harrassowitz, 1987–2006. 【研究書シリーズ】

○英語

Peter Kornicki. *The Book in Japan: A Cultural History from the Beginnings to the Nineteenth Century*.
Leiden: Brill, 1998. Honolulu: University of Hawai'i Press, 2001. 【研究書】

○漢籍について

倉石武四郎（述）『目録学』（東京大学東洋文化研究所、1973年；汲古書院、1979年）

（3）今後の進め方について

・斯道文庫の佐々木孝浩先生に、「書誌学用語勉強会」が立ち上がるのであれば書誌学用語の問題点についてお話頂ける、とのお申し出を頂いた。

【事務局からの提案】「2. 書誌学用語勉強会の立ち上げ」に対する関心が特に高かった。今後、多言語の書誌学用語集・用例集を構築するための「書誌学用語勉強会」を月1回ほどの頻度で開き、「1. 日本古典籍に関するデジタル資源」・「3. デジタル展示の企画」について話し合うためにこの分科会（情報リテラシー）を半年に1回ほどの頻度で開く、という計画でいかがでしょうか。

【今後の計画（案）】

- ◆「書誌学用語勉強会」：9～10月ごろから開始。初回は、佐々木孝浩先生にお話頂いた後、どのような書誌学用語・概念から検討を始めるべきかを議論。開始時間が交互に日本時間9時または21時となるようにして、月1回ほどの頻度で開催。
- ◆「日本古典籍に関する情報リテラシー分科会」：第3回を半年後（2021年12月～2022年1月ごろ）に開催。
- ◆引き続き、事務局がモデレータを担当。

以上

（文責：日本古典籍研究国際コンソーシアム事務局 2021.06.29.）